

# 多様なニーズに挑む 岡山協立病院の真価

医療現場では、どれだけ注意を払っていても、ミスや見落としが起る可能性があります。大切なのは、起きた出来事や気づきを隠さず共有し、同じことを繰り返さない仕組みづくりにつなげることです。

患者さんの命を預かる現場では、職員一人一人の小さな気づきが大きな事故を防ぐきっかけになります。岡山協立病院では、医師、看護師、薬剤師、検査技師、リハビリスタッフ、事務職



さとう・わたる 岡山大卒。岡山協立病院で初期臨床研修を開始し、研修終了後も同病院で勤務を続ける。2017年に新設した総合診療科の創設メンバーの一員。

院内では、日常診療および研修医の教育・指導に加え、抗菌薬適正の使用支援チーム(AST)の一員として感染症診療の質向上に取り組むとともに、医療安全管理部長として病院全体の医療安全活動に関わっている。日本内科学会認定内科医。

## ⑤ 医療安全の取り組み —小さな気づきが患者安全を支える

岡山協立病院総合診療科副部長 佐藤 航



多職種が集い毎週行っている医療安全カンファレンス

員など、それぞれの専門性を持つ職員が職種を超えて連携し、相談しやすい雰囲気づくりを大切にしています。

全国203施設、14万6894人を対象に実施された医療安全文化調査では、当院は「過誤に対する非懲罰的な対応」の項目で1位となりました。これは、ミスやヒヤリとした出来事を個人の責任として責めるのではなく、組織全体で共有し、再発防止につなげる文化が根付いていることを示しています。

「Good Job 報告書」で広がる前向きな報告文化  
当院では、医療安全の取り組み



の1つとして「Good Job 報告書」を活用しています。これは、患者さんの安全につながった良い気づきや対応を職員が報告し、病院全体で共有する仕組みです。良い行動を職場全体で共有することで、他のスタッフの学びや成長にもつながっています。

「Good Job 報告書」は2013年度から取り組みを開始し、17年度には院内システムでの報告体制を整えました。報告件数は同年度の227件から24年度には420件に増加しています。

24年度に報告された「Good job 報告書」では、エラーを発見し事故を未然に防いだ事例が149件、状況観察や危険予測によって事故防止や診断・治療に役立った事例が136件ありました。不確実な医療の現場では、多くの場面で職員に柔軟な対応が求められていることがこれらの報告内容から分かります。

また、「Good Job 報告書」には、「気づいてくれてありがとう」「声をかけてくれて助かった」という言葉が記載されている報告も多くあり、前向きな事例共有につながっています。医療の

現場においては、起きた事例を振り返り、再発防止策を検討することが求められますが、一方で報告した人を責めるのではなく、良い行動にも着目しそれを相手に伝えることで心理的安全性が高まり、職員同士の信頼関係構築やチームワークの向上にもつながっています。

■患者さんともにつくる安心できる医療  
医療安全は、病院職員だけでなく患者さんやご家族からの声も、安全な医療につながる大切な情報です。

診察や検査、注射、薬の受け渡しなどで、お名前や生年月日を繰り返し確認することがあります。これは患者さんの取り違えを防ぐための大切な確認です。また、「いつもと薬の色や形が違う」「説明で気になることがある」「体調に普段と違う変化がある」など、不安や疑問がある際は、遠慮なく職員にお声かけください。

岡山協立病院では、これからも職員一人一人の気づきを大切に、患者さんと医療スタッフがともに安心を築ける病院を目指して、医療安全の取り組みを進めていきます。

岡山協立病院 (086) 272-2121